

なぜなぜ
ヒント①

子育て当事者である保護者のケアにも注力を

子育て世代の不満の一因として、「中山町での子育ては親の負担が大きい」という点が挙げられます。「子育て相談ができない」「休日に子どもを預けられない」「子どもだけで安心して遊べる場所が限られている」など、保護者が常に子育てに付き添わざるを得ない状況が生まれています。

こうした課題に対しては、行政による支援サービスの拡充を求める声に加え、住民主体の交流の

場づくりや情報共有など、町民同士の連携による解決を期待する意見も出されました。これらの活動を支える場として、新たな公共施設に期待する声も多く聞かれます。

子育て環境の充実には、子どもに対する教育・福祉サービスの向上だけでなく、保護者のケアも見据える必要があることが分かりました。

なぜなぜ
ヒント②

多世代との出会いを創出することで課題を解決

現在の中山町では、子どもにとっての遊び場が不足しているだけでなく、地域イベントも減少しているとの指摘がありました。そのため、大人も子どもも町内で会える人が限定的であることから、多世代交流の機会を求める声が多く聞かれました。

また、子育て相談や部活動の場面において「必要な人材と会えない」といった意見もあり、行

政による人材のマッチング支援への期待が寄せられました。

公共施設の再整備にあたっては、「多世代が楽しく過ごせる場」としての交流拠点となることが望まれており、大人だけでなく子ども同士にとっても出会いの場となることで、勉強や遊びを通じた世代を超えた交流が生まれる可能性があると考えられます。

なぜなぜ
ヒント③

「過ごしにくい町」から「選ばれる町」へ

今回の議論では、「勉強できる場所がない」「子育て世代同士で情報交換できる場がない」といった声が多く聞かれました。一方で、公共施設の中には十分に活用されていない空間もあり、代替の場として活用できる可能性もあります。しかし、施設の設備が古く、現代のニーズに応えられていないため、町民が「中山町は過ごしにくい」として、より使いやすい町外の施設へと足を運ぶ傾向が強

まっているのが現状です。

こうした現状を脱却するためにも、新たな公共施設を整備する際には、子育て当事者（子どもと保護者）にとって魅力的で使いやすい空間であることが求められます。この点において、中山町のニーズをしっかりと把握するために、当事者の声をしっかりと聞く必要があると考えます。

公共施設再配置計画については、その必要性が「第6次中山町総合発展計画」にて説明されています。以下URLまたは、右記コードよりご確認ください。

◎中山町「第6次中山町総合発展計画を策定しました」

<https://www.town.nakayama.yamagata.jp/soshiki/seisaku/machidukurisuishin/214.html>



【主催】中山町総合政策課まちづくり推進グループ・総務広報課防災安全対策室
(中山町大字長崎120番地/電話:023-662-4899)

【制作】東北芸術工科大学デザイン工学部企画構想学科 田澤ゼミ

〈2026年1月発行〉

なぜなぜ 大会議

開催レポート
第6号



子育てるには良い町だけれど、まだまだ不十分なのは、なぜ？

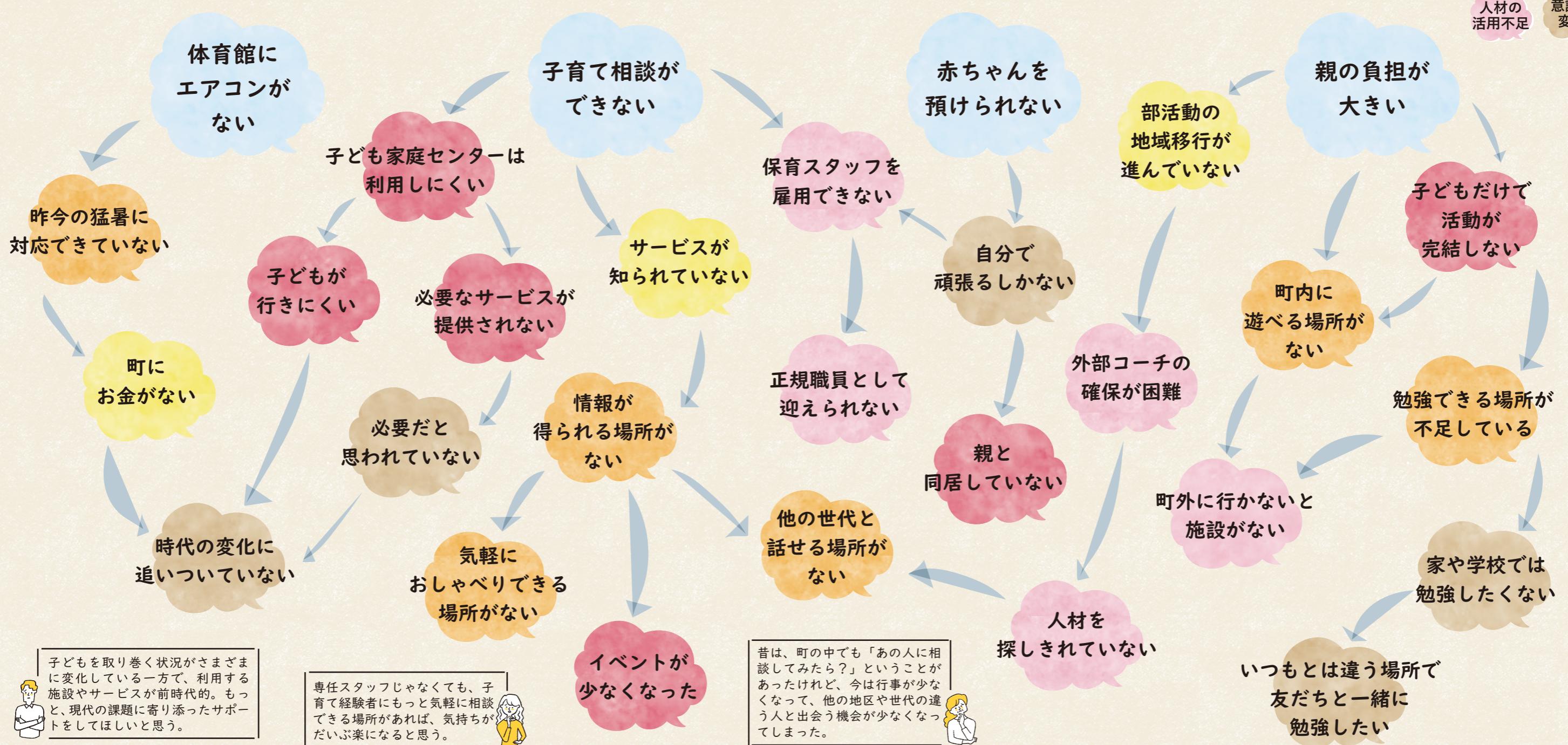
中山町では、現在策定を進めている「第6次中山町総合発展計画後期基本計画」及び「中山町公共施設再配置計画」をより良いものにするために、町民の皆さんのが普段の生活の中で感じている「もっとこうだったらしいのに…なぜ？」という不安・不満について、課題の根底と向き合い、その改善策を考える「なぜなぜ大会議」を今年8月に開催しました。このレポートでは、議論されたテーマの一つ「子育てるには良い町だけれど、まだまだ不十分なのは、なぜ？」について、当日のワークショップで出された意見をお届けします。

昨年度の町民インタビューでは、子育て支援センターの充実や医療費・給食費の無償化など、行政サービスへの一定の評価が得られました。一方で、共働き世帯や核家族化への対応が不十分との声や、中高生からは「勉強できる場所が少ない」との指摘もありました。

今回の議論では、子育て世代の負担の大きさや、相談・預け先・安心して遊べる場の不足が改めて浮き彫りとなりました。公共施設の設備が老朽化し、町民が「より充実した子育てを求めて」町外へ流出する傾向が強まる中、子育て世代にとって魅力的で使いやすい施設の整備が求められています。いかに「子育て世代に選ばれる町」となるかが、今後のまちづくりの重要な鍵となります。



なぜなぜ連鎖マップ 子育てするには良い町だけれど、まだまだ不十分なのは、なぜ？



課題解決のために 自分たちで取り組めうこと

顔の見える関係を続ける！

ご近所で挨拶を交わしたり、登下校を地域の人が見守ってくれるのは、保護者にとってありがたいこと。子どもたちにとっても安心・安全につながる「顔の見える関係」を、これからも大切にていきたい。

空き家を活用した 子育て支援スペースの運営

空き家の多い中山町では、子育て支援の場として活用する提案が有効。世代を超えて気軽に集まれる場があるだけで、子育ての悩みや不安の軽減につながると思う。

課題解決のために 行政に期待したいこと

子育て世代向けの住宅支援

昔は祭りなどで自然と人と出会う機会があったが、今はそうした場が減っている。だからこそ、多世代がつながるイベントを通じて、地域の交流をもう一度活性化させたい。

イベント開催による 交流の場の復活！

昔は祭りなどで自然と人と出会う機会があったが、今はそうした場が減っている。だからこそ、多世代がつながるイベントを通じて、地域の交流をもう一度活性化させたい。

子育て支援サービスの拡充

中山町では、身内に頼れない場合の子育てが大変。土日も預けられる環境や、未就学児の保育・学童保育の体制を整えることで、保護者の負担を軽減できる。

課題解決のために 新しい公共施設に期待したいこと

親子で過ごせる カフェスペースや休憩所

子どもと外出すると、食事の場面で困ることが多い。離乳食の持ち込みや子ども用の椅子があるなど、親子で安心して食事できる場所が町内にあると嬉しい！

子ども連れでも安心できる場所

公共施設には授乳やおむつ替えのスペースが多く、段差が多くて使いづらい。子どもと一緒に安心して過ごせるバリアフリーな施設がほしい！

子育て相談ができる窓口の併設

気軽に立ち寄れる施設に、子育て相談窓口があると便利。父親も利用しやすいように、「ついでに相談できる」雰囲気があると使いやすいと思う！

見やすい子育て情報の発信

新しい施設には、子育て情報を集約して表示するデジタルサイネージを設置し、SNSでも発信することで、情報と人が自然に集まる場にしてほしい。

幅広い「子ども世代」が楽しく過ごせる場所

未就学児が安心して遊べるだけでなく、中高生も自由に過ごせる空間があると嬉しい。多様な子どもたちの活動が共存できる施設に期待したい！